

自己評価報告書(最終報告)

報告者

言語系コース(国語)／茂木
俊伸

■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが(平成24年8月28日)、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

1. 目標・計画

(1) 授業内容では、受講者が授業内容と言語生活を有機的に結び付けられるよう工夫するとともに、自らの学びの意義を認識できるような授業実践を行う。
(2) 授業方法では、受講者が上記内容を十分に意識化できるよう工夫する。特に、演習時のサポートを手厚く行う。
(3) 成績評価では、リフレクションシート等を用いて学びの過程を評価に反映させるとともに、受講者へのフィードバックを行う。

2. 点検・評価

(1) 学生の言語生活に関わるトピックを授業に積極的に取り入れ、生活－学問－教育のつながりを常に意識できるような授業実践を行った。
(2) 上記の内容を効果的に扱えるような教材・配布資料を使用した。また、演習科目には事前指導システムを導入し、学生の発表準備のサポートを行った。
(3) 学びの過程でリフレクションシートや小レポート等の提出を課し、これらを評価対象に含めるとともに、その内容の紹介や返却を通して、受講者に対するフィードバックを行った。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ－1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

- 講義内容に対する学生の疑問をすくい上げながら、国語学の知識・思考法の定着を図る。
- 学生の学習活動を促進するために、言語生活に関するトピックを授業内外で積極的に扱う。また、授業中の機会や個人ウェブページを利用して、関連図書の紹介を積極的に行う。
- 学生との間にハラスメント行為等のない良好な関係を構築し、問題解決のための支援を行う。

2. 点検・評価

- 講義・演習科目のいずれにおいても、受講者の疑問をすくい上げる機会、自らの言語生活を振り返る機会を積極的に設けた。
- 上記「Ⅱ－1」のとおり、言語生活に密着したトピックを積極的に扱った。また、授業や個人ウェブページを活用した基本図書の回覧・紹介も行った。
- 就職支援と教育実習指導を積極的に行った。また、学生総合相談室相談員(アドバイザー)として、ハラスメントに関わる研修を受けるなど、学生支援体制の充実に努めた。
- 学生支援に関する学長裁量経費プロジェクトに参画した。

Ⅱ－2. 研究

1. 目標・計画

- 専門分野である現代日本語の文法・語彙に関する研究を引き続き行い、成果を公表する。
- 日頃の授業実践の成果およびそれを踏まえた考察を論文化し、公表する。
- 共同研究に積極的に参画し、研究者としての役割を果たす。
- 科学研究費補助金の申請を行う。

2. 点検・評価

- 現代日本語の文法・語彙に関する研究を行い、ポスター発表1回、講演1回として公表した。また、解説1編を執筆した。
- 授業実践を踏まえた論文を2編公表した。また、「教科内容学」テキストの分担執筆を担当した。
- 学外研究機関の共同研究プロジェクト(2件)に参画した。
- 本年度から3年間の科学研究費補助金(若手研究(B))を獲得し、研究を推進した。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

- 委員会の委員として会議に出席し、その職務を遂行する。
- 円滑な大学運営が遂行できるよう、コース・教育部・大学への協力を行う。

2. 点検・評価

- 予算・財務管理委員会等、各委員会の委員として会議に出席し、職務を果たした。
- コース会議および教育部会議に出席し、大学への協力を行った。退職にあたっての引き継ぎ資料も作成した。

Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携、国際交流等

1. 目標・計画

- 附属学校園と連携をとり、積極的に協力・意見交換等を行う。(附属学校)
- 「教育支援講師・アドバイザー等派遣事業」に登録し、地域からの要請に応える。また、「公開講座」を実施する。(社会連携)
- 協定校からの短期留学生の指導・サポートを行う。(国際交流)

2. 点検・評価

- 学部・附属連絡協議会や教育実習等の機会を通じ、附属学校園との連携に取り組んだ。(附属学校)
- 教育支援講師・アドバイザー等派遣事業、徳島県生涯学習情報システム「まなびーあ人材バンク」に登録した(派遣実績はなし)。また、公開講座を共同で実施した(6月, 1件)。(社会連携)
- 9月帰国の留学生(2人)を送り出した。また、10月入学の留学生(1人)を受け入れ、学習や生活の指導および支援を行った。(国際交流)

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

- 兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科Dマル合の資格認定を受けた。
- 「教科内容学」テキスト(『教科内容学に基づく小学校教科専門科目テキスト 国語』)の執筆・編集に携わった。